

平成26年12月期 決算短信資料

2015年2月12日(木)

カゴメ株式会社(2811)

<http://www.kagome.co.jp/company/ir/index.html>

連結業績(平成26年12月期)

単位:億円

	13年度	13年度 読替	14年度	7/18従来予想		
				対13年度		対公表
				増減	増減率	増減
売上高	1,930	1,583	1,594	+10	+1%	▲26
営業利益	68	64	43	▲21	▲33%	▲3
率	3.5%	4.1%	2.7%			
経常利益	75	70	50	▲20	▲29%	+2
率	3.9%	4.4%	3.1%			
純利益	51	46	44	▲2	▲5%	+19
率	2.6%	2.9%	2.8%			

読替=14年度の変則決算と同期間に読み替え。

億円未満は四捨五入

- ・微増収(国内減収<海外増収)・減益となった。
- ・固定資産の売却益などがあり、純利益は前期並みだった。
- ・昨年7月の修正公表値に対しては、売上が未達となった。

事業別売上高(平成26年12月期)

◆国内

単位:億円

	13年度	13年度 読替	14年度	実質	
				増減	増減率
飲料	878	689	620	▲68	▲10%
食品	233	175	176	+1	+1%
ギフト	83	81	77	▲4	▲5%
生鮮野菜	97	78	75	▲4	▲5%
通販	83	66	69	+3	+4%
業務用	258	199	203	+4	+2%
その他	151	129	134	+5	+4%
国内小計	1,782	1,418	1,353	▲64	▲5%

読替=14年度の変則決算と同期間に読み替え。

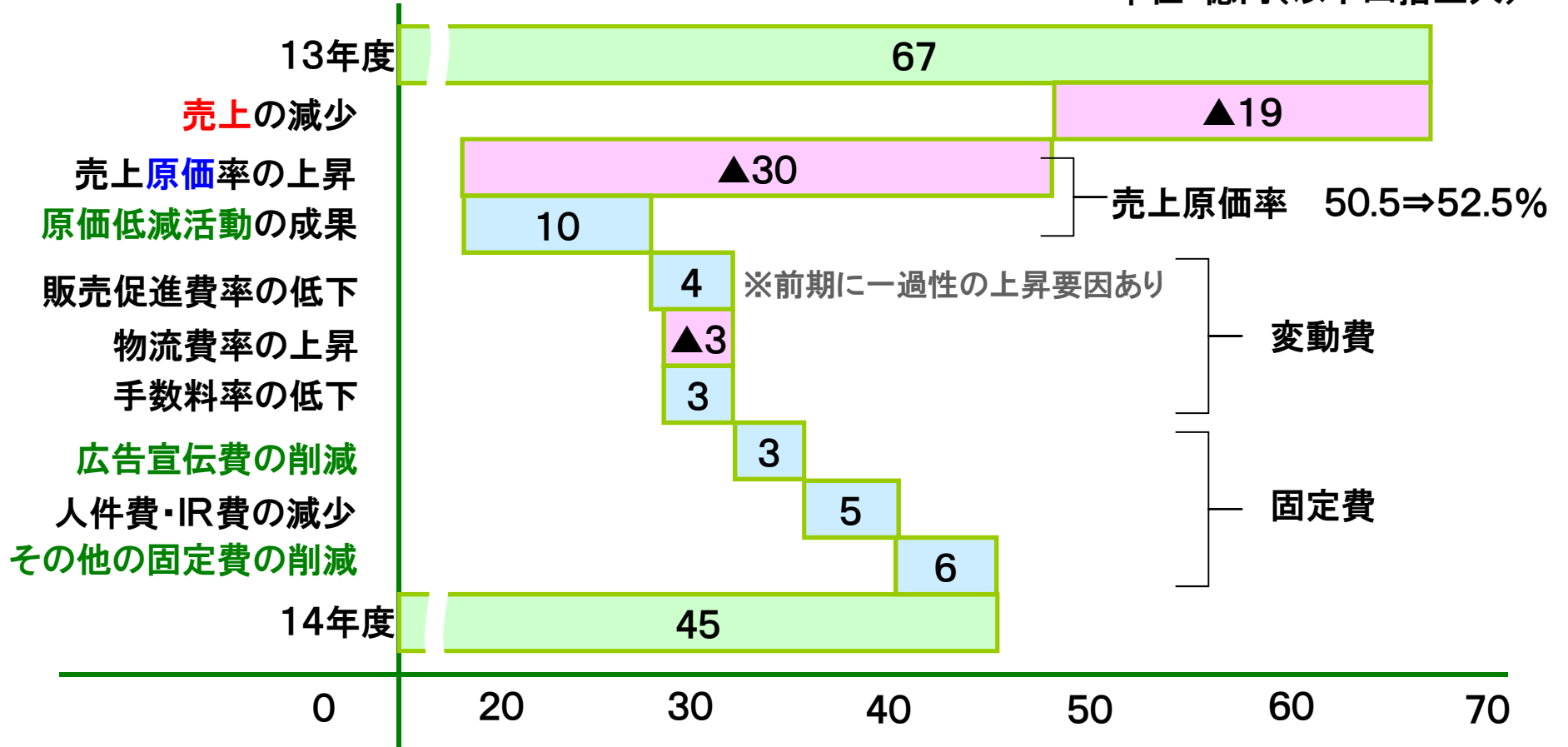
- ・飲料 野菜飲料は健康飲料としてのポジションが相対的に低下している。
- ・食品 増税前需要の反動から回復し、第2四半期以降増加に転じた。
- ・ギフト 贈答需要の冷え込みと野菜飲料の不振の影響を受けた。
- ・生鮮 市場に出回るトマトの量が多く、単価が下落した。
- ・通販 新商品の「つぶより野菜」が増分となった。
- ・業務用 大手顧客に対する営業力強化の成果が表れた。

営業利益増減要因(個別)

13年度実績は14年度と同期間で読み替えている

◆累計(4-12月) 前年比

単位:億円(以下四捨五入)



- ・世界的なトマト価格の上昇や円安などにより、売上原価率が上昇。
- ・売上減に伴う手段の追加により、販売促進費率は実質的には上昇。
- ・期中で可能な限りの原価低減活動、固定費の削減を実行した。

事業別売上高(平成26年12月期) ほか

◆海外

単位:億円

	13年度	14年度		
			増減	増減率
米国	156	201	+45	+29%
欧州	108	123	+15	+14%
豪州	37	55	+18	+50%
グローバルトマト計	300	379	+79	+26%
アジア	33	32	▲1	▲3%
海外小計	333	411	+78	+23%

- ・米国 KAGOME.INC社の拡大。United Genetics(UG)社+19、為替+14。
- ・欧州 UG Turkey社+10、為替+9。Vegetalia社の事業を再構築中。
- ・豪州 出荷時期が前期末・当期初を跨いだことで増収。固定投資を行った。
- ・アジア タイの増収。 ⇔ 中国飲料事業のスキーム変更に伴う一時的な減収。

※海外利益は、新規ののれん代▲6億円を考慮すれば、実質的に増加した。

◆特別損益/税

- ・東京支社ビルが老朽化、近隣自社保有地に新築中。従来物件の売却益19億円。
- ・中国の野菜飲料事業のスキームを変更。既存法人の清算に伴い、税効果会計を適用（純利益への好影響10億円）。

連結貸借対照表

単位：億円

科目	3月末	12月末	増減額	科目	3月末	12月末	増減額
キャッシュ	251	241	▲ 10	有利子負債	311	359	+48
売上債権	307	333	+26	仕入債務	145	142	▲ 3
在庫	405	450	+45	未払金	92	94	+2
その他	111	205	+94	その他	158	194	+36
流動資産計	1,074	1,228	+155	負債計	706	788	+82
有形固定資産	487	516	+29	株主資本	1,010	1,033	+23
無形固定資産	66	52	▲ 14	その他包括利益累計額	75	163	+88
投融資	163	200	+38	新株予約権	-	0	+0
その他	47	38	▲ 9	少数株主持分	45	49	+4
固定資産計	762	806	+43	純資産計	1,130	1,246	+115
総資産	1,836	2,034	+198	負債・純資産	1,836	2,034	+198

- ・流動資産「その他」の増加のうち、82億円はヘッジ為替の評価益。
- ・固定資産「投融資」の増加のうち、28億円は保有株式の時価変動。
- ・総資産合計で、円安に伴う海外資産の邦貨換算での増加影響が32億円ある。

連結業績(平成26年12月期)

単位:億円

	13年度	13年度 読替	14年度	7/18従来予想		
				対13年度		対公表
				増減	増減率	増減
売上高	1,930	1,583	1,594	+10	+1%	▲26
営業利益	68	64	43	▲21	▲33%	▲3
率	3.5%	4.1%	2.7%			
経常利益	75	70	50	▲20	▲29%	+2
率	3.9%	4.4%	3.1%			
純利益	51	46	44	▲2	▲5%	+19
率	2.6%	2.9%	2.8%			

◆まとめ

- ・国内事業は外部環境の変化への対応力に欠き、減収減益となった。
- ・近年拡大させてきた海外事業の増収により、連結では微増収となった。
- ・海外売上高比率は、12ヶ月ベースで18.5%まで上昇。

中期戦略

15年度の位置付け

- ・連結経常利益率目標



↑ 12ヶ月基準で読み替え。

- ・16年度までを、新たな中期の改革を行う期間と位置付ける。

2つの改革

- ・20万人ものファン株主の皆さまに支えられている。
- ・社外の評価に甘えず、社内の危機意識・収益意識の低さを正していく。

働き方の改革

+

収益構造の改革

中期戦略

成長の方向性

- ・カゴメは日本で消費されるトマトの3割、緑黄色野菜の1割を供給している。
- ・「カゴメトマトジュース プレミアム」が、14年度の「フード・アクション・ニッポン・アワード」の大賞を受賞。



→今後も食を通じて社会に貢献するために、社会問題や、ステークホルダーからの期待に対し、カゴメならではの方法でソリューションしていく。

・トマトは世界の消費量、伸び率でNo.1の野菜。

トマトと野菜のソリューションビジネスをグローバルに展開。

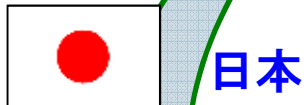
中期イノベーション課題

トマトでBtoBソリューション



米国

グローバルフードサービス顧客の
トマト商品サプライヤーとしての実績。



日本

FF、CVSなどの大手
ユーザーへの対応力強化に
より、業務用事業が伸長中。



販売

二次加工

一次加工品
調達

一次加工

生原料
調達

農業

育苗

種子



世界からの
ネットワーク



日・豪・ポルトガルで
契約栽培方式を展開

豪:大規模農業
日:施設菜園

トルコ

日本・北米・
南欧・インド等



ポルトガル

一次加工・二次加工品を、
欧州等に販売。



豪州

・一次加工品を、豪州内等
に販売。

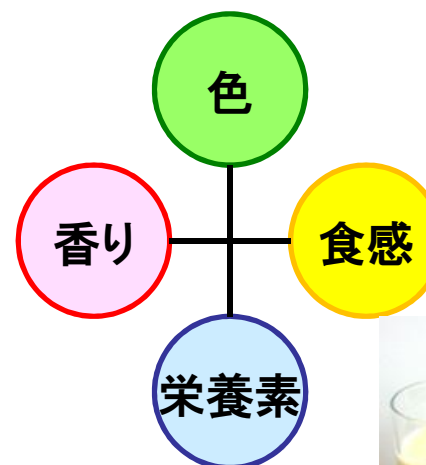
・14年度、フードサービス
向けの設備投資を実施。

「水平方向 + 垂直方向」の連携により、
世界のトマトのBtoBソリューションビジネスにイノベーションを起こす。

中期イノベーション課題

フレッシュ化への挑戦

- ・フレッシュな野菜や果物が持つ、植物本来の色やフレーバー、栄養素などを可能な限り活かす。
- ・鮮度の追求には、原料調達・加工技術・生産拠点・ロジスティクスなどで既存のしくみを革新する必要がある。



※イメージです。

農からの価値創造

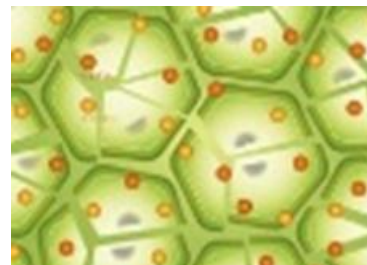
- ・パックサラダ、カット野菜の合併事業の新工場が横浜市に竣工した。
- ・高齢化、世帯人数減少、有職女性の増加を背景に市場拡大が見込まれる。



15年度経営課題① バリューアップ

野菜をジュースで摂る価値

野菜ジュースは**栄養の吸収率**という点で生野菜より優れていることを、訴えていく。



野菜の栄養素を覆う細胞壁を、ジュースにする加工の過程で壊している。

- ・ジュースにすることで吸収率が上がる栄養素にはリコピン、β-カロテン等があります。
- ・加工によって失われる成分もあります。

野菜生活100 20周年

- ・約30種類、売上400億円以上。当社を代表するブランド。
- ・記念のマーケティング・パッケージを準備している。



トマトケチャップの需要喚起

- ・4月から25年ぶりに価格を改訂する。
- ・需要喚起策には万全を期す。



地方予選を経て、5月に東京スカイツリータウンにて全国大会を開催。

既存の事業や商品群の収益改善「バリューアップ」に取り組む。

15年度経営課題② 生産性の向上

働き方の改革

- ・夜8時以降の残業禁止(14年5月～)。
- ・業務改革室が、外部のコンサルタントと共に、組織や個人の仕事の付加価値にまで踏み込んだ改革案を策定中。
- ・新たな人事制度の導入
15年度は、管理職層まで職務に応じた新たな報酬制度を適用。

収益構造の改革

- ・継続的な原価低減活動。
- ・定常的な固定費の削減。
- ・商品の絞り込み。
- ・多様化するメディアに対応し、広告費の効率性追求。
広告費の総額を削減する。
- ・滞留ロスの極小化。
- ・販売促進費の効率的な活用。 など

改革によって生み出されるリソースを成長分野へ振り向ける。



連結業績見通し(平成27年12月期)

◆セグメント別売上高計画

単位:億円

	14年度 読替	15年度		
			増減	増減率
飲料	810	814	+4	+0%
食品	234	234	+0	+0%
ギフト	79	80	+1	+1%
農	93	102	+9	+10%
通販	85	86	+1	+1%
業務用	261	275	+14	+5%
その他	156	156	+0	+0%
国内小計	1,718	1,747	+28	+2%
米国	201	218	+17	+8%
欧州	123	123	+0	+0%
豪州	55	67	+12	+21%
グローバルトマト事業	379	408	+29	+8%
アジア	32	40	+8	+25%
海外小計	411	448	+37	+9%
セグメント間取引	▲189	▲195		
連結(国内+海外)	1,940	2,000	+60	+3%

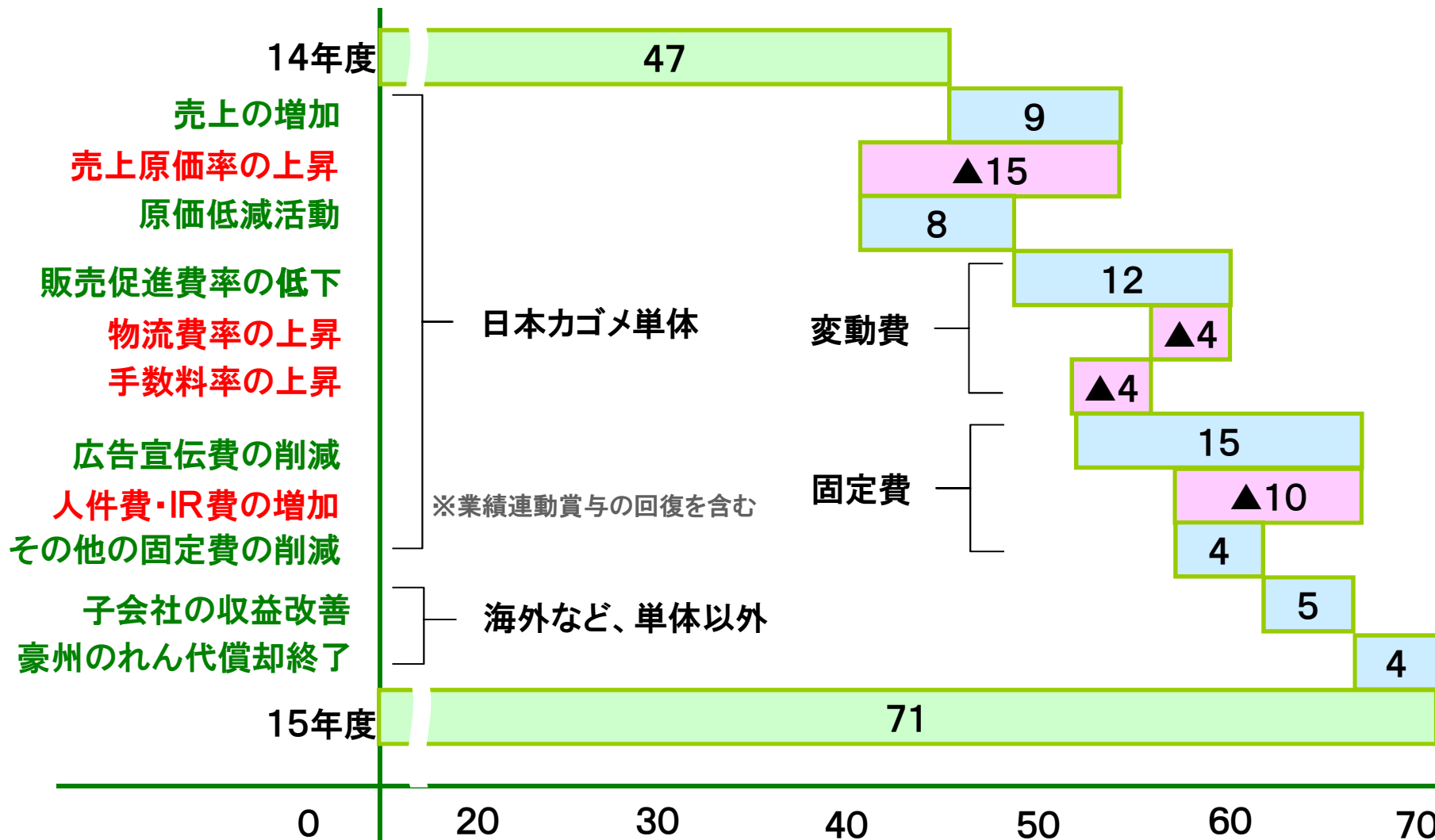
14年度実績は、15年度の決算基準で読み替え

営業利益の増減計画

14年度実績は、15年度の決算基準で読み替え

◆連結・累計(1-12月) 前年比

単位:億円



業績予想(平成27年12月期)

◆通期

単位:億円

	14年度	14年度 読替	15年度		
			増減	増減率	
売上高	1,594	1,940	2,000	+60	+3%
営業利益	43	47	71	+24	+52%
率	2.7%	2.4%	3.6%		
経常利益	50	55	76	+21	+39%
率	3.1%	2.8%	3.8%		
純利益	44	49	40	▲9	▲18%
率	2.8%	2.5%	2.0%		

億円未満は四捨五入

読替=15年度の1-12月決算基準と同期間

- ・経常利益率を1%引き上げる。
- ・14年度に特別利益などがあったため、純利益は減益となる。
- ・配当は、変則決算前の実績である、一株当たり22円を予定。

注意事項

当資料はカゴメの現在の計画、見通し、戦略などのうち歴史的事実でないものは、現在入手可能な情報から得られたカゴメの経営者の判断に基づいております。従いまして、これら業績見通しのみで全面的な依拠することは控えるようお願い致します。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、以下のようなものが含まれます。すなわち、①天候、特に夏場の低温 ②異物混入等の製品事故 ③カゴメの事業領域を取り巻く経済情勢、特に消費動向 ④変わりやすい顧客嗜好などを特徴とする激しい競争にさらされた市場の中で、顧客に受け入れられる製品やサービスをカゴメが企画・開発し続けていく能力、などです。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また当資料は、あくまでカゴメをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。さらに当資料に記載されている市場などのデータ等におきましても、当社が信頼に足りかつ正確であると判断した情報に基づき作成しておりますが、将来の予測のみならず過去の部分も含めて、見直し等により予告なしに変更することがありますのでご注意ください。